

- Ginowan Museum -

はくぶつかん ネット

第40号

2011

2月～4月号

年3回発行<5、9、2月>発行

"字" (あざ) の歴史を学ぶ



発行:宜野湾市立博物館

〈TEL〉098-870-9317

〈FAX〉098-870-9316

〒901-2224

宜野湾市真志喜 1-25-1

ホームページ

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>

博物館キャラクター

天女ちゃん♡

平成 23 年 2 月 2 日 (水) ～2 月 27 日 (日) まで、地域との共同企画展「ぎのわんの“字”展～じのーん どうーむら～」を開催し、892 名の方々が来館しました。

宜野湾市には多くの“字”があり、戦後その形態が大きく変化したため、自分達が暮らす“字”の歴史や文化について知らない若者も多く、語れる人も少なくなってきました。そのような状況だからこそ、市立博物館は、自分達の住んでいる宜野湾市内の“字”について知り、興味を持ってもらうこと目的に毎年、市内の各字に関する展示会を行っています。第 4 回目となる今回の展示会では、「字宜野湾」を対象として開催しました。

字宜野湾は、琉球王国時代からの宜野湾間切(現在の宜野湾市)と「同じ」名前のムラ名(字)であるということから「じのーん どうーむら」と呼ばれていました。展示資料の中には、宜野湾区の自治会で現在も実際に行事で使用されている、旗頭、エイサー、平成 19 年に、66 年ぶりに復活した大綱引きの道具や衣装の展示もあり、その中でも旗頭の上に置かれる「チヂンドゥール(鼓灯籠)」は、その大きさに、訪れた方々は、「こんなに大きいものが旗頭の上に乘るのか」と驚いた様子で見っていました。

じのーん どうーむらの中心地を見る

■宜野湾馬場の風景

「ぎのわんの“^{あざ}字”展〜じのーん どうーむら〜」では、戦前、宜野湾村（現市）の中心地として栄えていた字宜野湾にスポットを当て、その歴史や暮らしを紹介しました。その中でも来館者の方々の多くが足を止めていたのは1910年頃に撮影された宜野湾馬場の写真の前でした。

馬場は、国の天然記念物に指定（昭和7年指定）されていた宜野湾並松（ジノーンナンマチ）の西側に位置し、その周りには、宜野湾役場や小学校、宜野湾市場（ジノーンマチグー）などがありました。役場から聞こえてくるソロバンをはじく音や、マチグーから聞こえてくるおばさんたちの笑い声、馬場で体操をする子供達の楽しそうな声が混ざり合い、とても賑やかな場所だったといえます。

他にも馬場では馬勝負（ウマスブ）や綱引き（チナフィチ）、原勝負（ハルスブ）が行われ、字内外の人々をも惹きつけました。



宜野湾馬場（東京大学理学系研究科理学部生物学科図書室所蔵）

■「宜野湾村道路元標」(ぎのわんむらどうろげんぴょう)

今回の字展で展示したこの細長い石の塊。何だと思いませんか？これは、道路元標（どうろげんぴょう）と言い、道路の起点・終点・主な経過地を示す標識の役目を果たしていました。この「宜野湾村道路元標」は、戦前、字宜野湾にあった宜野湾村役場前に立てられていました。村役場の建物正面の前に石垣の塀があり、その上に役場の掲示板とならぶように立てられていたそうです。しかし、沖縄戦で字宜野湾集落のほとんどが米軍に接収され、村役場もなくなってしまいました。この道路元標は、戦後、集落の住民が見つけ、その後、役所に寄贈されたようです。

長年、市教育委員会文化課にて保管されていましたが、今回、初公開となりました。

道路元標の大きさは、縦99センチ、横45センチ、幅25センチ、琉球石灰岩質ででき、「宜野湾村道路元標」と刻まれています。

この道路元標は、読谷村喜名の番所跡に「読谷山村道路元標」、沖縄市美里に「美里村道路元標」と刻まれ、今も残されています。



宜野湾村役場



宜野湾村道路元標

移動展のお知らせ



今回、企画展を見ることが出来なかった方に朗報です！宜野湾区自治会公民館にて移動展を開催、企画展の展示の一部を見ることが出来ます！是非、宜野湾区自治会公民館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

☆場 所：宜野湾区自治会公民館（宜野湾 1-22-24）

☆期 間：3月28日（月）～4月2日（土）

☆お問合せ：宜野湾市立博物館（8p 参照）

「じのーん どうーむら展」を終えて～自治会長へインタビュー～



地域との共同企画展「ぎのわんの“字”展～じのーん どうーむら～」を終えての感想を、宜野湾区自治会会長の仲村清さんにインタビューをしました。

Q：今回、博物館と共同で展示会を行っての感想をお願い致します。

A：宜野湾の自治会の資料だけではなく、宜野湾市の字の移り変わりなどが分かりやすく説明されていて、とても良かったと思います。博物館と共同で展示会を行うことによって、お互いが持っている字宜野湾の貴重な資料をまとめてみる事ができましたし、特に古い資料や写真など、普段は中々見ることができない貴重な資料は、とても参考になりました。

また、企画展をTVや新聞で取り上げてもらい、市外の方々や若者たちに字宜野湾という場所を知ってもらう良い機会になったと思います。



宜野湾区自治会 会長 仲村 清さん

Q：宜野湾区自治会のアピールポイントを教えてください。

A：字宜野湾は結束力があります。特に地域で大きな行事があるたびに、戦前から続く「じのーん どうーむら」の結束力がよみがえります。その持ち前の結束力で2007年には、66年ぶりに大綱引を復活させることができました。次回の大綱引も地域一丸となり、成功させたいと考えています。

自治会長の仲村清さん、ありがとうございました。市立博物館では、これからも「ぎのわんの“字”展」を毎年開催して行きます。展示会を通して市民の方々が、自分達の住んでいる地域について興味を持ていただければ幸いです。

ミニ古地名展



宜野湾市教育委員会文化課市史編集係では、調査報告書『ぎのわんの古地名（内陸部編）』の編集にあたり、これまで市内の各字（あざ）を調査してきました。そして、調査成果を報告する場として、調査を終えた市内各字の自治会にて、「ミニ古地名展」を実施してきました。その「ミニ古地名展」で紹介された、各字（嘉数・野嵩・真栄原・佐真下・喜友名・字宜野湾・安仁屋）の地図を博物館ロビーにて展示しました。

地図は戦前(昭和20年1月)と現在の空中写真に地名を表示して昔と今とを比較してみることで、わかりやすい展示で、見学者も真剣な表情で見ました。



食い入るように展示を見る市民の方々





秋の特別展トピック！～時代別に見る食の変遷～

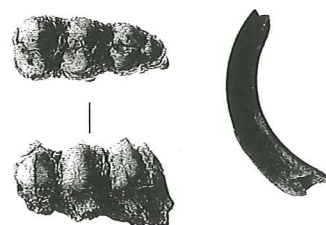
「掘り出されたぎのわん昔のくらし」では、宜野湾市の真志喜安座間原第一・第二遺跡(約3000年～1500年前)、喜友名東原ヌバタキ遺跡(約2500年前)から発見されたものを中心に、昔の人々のくらしに関する展示会を行いました。この時代を沖縄では貝塚時代(約7000年～900年前)と呼びます。ここでは、沖縄の“食”がどのように移り変わってきたかを見てみましょう!

■貝塚時代(約6500年前～900年前)

貝塚時代の食は、狩猟・漁労・採集でした。イノシシやケナガネズミを狩り、貝や魚を捕まえ、木の実を食べていました。本土では弥生時代(2500年前頃)から稲作が導入されますが、沖縄で稲作が始まるのは8世紀頃に入ってからです。また、近年行われた安座間原遺跡から発見された骨の分析によると、この時代の人々は海の食べ物(魚介類)よりも、陸の食べ物(イノシシや木の実)を若干多く食べていたようです。なぜかという、魚貝類を主に食べている人は、炭水化物が不十分であるため、植物食を利用しなければならないのです。昔の人は、こういった事を経験的に体で知っていたのかもしれませんがね。



真志喜安座間原第一・第二遺跡出土の貝



伊佐前原第一遺跡出土のイノシシの骨

■古琉球(12世紀頃～1609年)

グスク時代の遺跡である真志喜森川原遺跡では、コメ・ムギなどの種子が発見されています。獣骨・魚骨・鳥骨なども発見されていることから、これらを組み合わせた食事であったと考えられます。また、久米島に漂着した朝鮮人の見聞録『李朝実録』(1456)によると、このころ沖縄では牛、馬、猪、犬を飼っていると記述することから、この頃までには畜肉の習慣があったことが窺えます。

■近世(1609年～1879年)

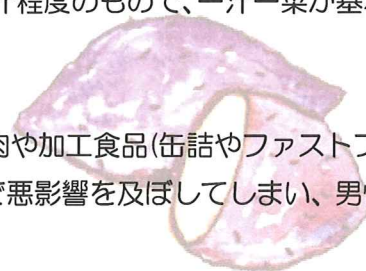
かつて沖縄でのメイン料理は牛料理でした。しかし1667年、当時の琉球王国の摂政である羽地朝秀^{はねいちようしゅう}によって改革が行われ、農業振興策のため農耕に役立つ牛は、殺してはダメだという命令が出されました。かわりに中国の冊封使を迎えるため豚肉を食べるようになりました。庶民にとってこの頃の豚肉は、行事でしか食べられないようなご馳走であったようです。

■近代(1879年～1945年)

このころの庶民の食事は、サツマイモを主食に芋の葉や茎の煮物、汁程度のもので、一汁一菜が基本でした。

■現代(1945年～)

戦後になるとアメリカの食文化が一気に流入してきます。輸入牛肉や加工食品(缶詰やファストフードなど)も登場します。このこともひとつの要因となり、戦後世代に食文化で悪影響を及ぼしてしまい、男性の長寿日本一は他県に座を譲ってしまいました。



このように、現在の沖縄料理のメインである豚肉は、近世以降に多く食べられるようになったもので、命令が出された直後は沖縄で豚を飼育していなかったため、奄美大島や近隣の島々から輸入していました。そして、現在ではカップラーメンやファストフードなどを手軽に食べる機会が増えてきている今、古くからある沖縄料理のよさを再確認し、「食」を考え直す時がきているのかもしれませんがね。



博物館市民講座



6月から始まった市民講座も、2月をもって終了となりました。この一年間、ご参加いただいたみなさん本当にありがとうございました。今年度の市民講座は、昨年よりも多くの方にご参加いただき、とても嬉しく思っています。

次年度も、多くの方が「楽しかった!」「また参加したい!」と思えるような市民講座を企画していきたいと思っていますので、今後も博物館市民講座をよろしく願いいたします。

では、今年一年の活動を振り返ってみましょう。



6月「歴史の証言 宜野湾の戦世(いくさゆ)を語る」

講師：仲村 元惟（宜野湾市史編集委員会 委員長）
知花 清徳（嘉数区出身）



企画展「戦場になったぎのわん」に関連した講座でした。前半は戦争体験者である知花さんに当時のお話をいただき、後半は仲村先生に知花さんのお話を補足してもらった形で、全体的な解説を加えてもらいました。みなさん真剣な面持ちでお話を聞いていました。

7月「琉球王国と宜野湾」

講師：田名 真之（沖縄国際大学教授）



琉球王府の地方統治の変化にともなって、宜野湾間切などの新設・再建がなされた近世の、歴史的背景についてお話していただきました。定員を大幅に超える参加者が集まり、会場はものすごい熱気でした。田名先生のファンの方もたくさんいらしていました♪

8月「高台のつくりと水の出るしくみ」

講師：大城 逸朗（おきなわ石の会会長）

野外見学!



夏の日差しのもと、参加者一同マイクロバスで嘉数高台や湧き水を巡り、宜野湾市の土地のつくりや、水が湧いてくるしくみなどをお話していただきました。途中、雨が降るハプニングもありましたが、みなさん楽しそうに大山たんぼを横断していました。

9月「港川人、安座間原人、奥間人から学ぶこと」

講師：知念 勇（宜野湾市立博物館館長）



港川人、安座間原人、奥間人の特徴や、港川人と比べて現代人の顎や脚力の退化が著しく、現代っ子に問題が生じていることなどについてお話していただきました。自分の顎や足の裏を触りながら退化を確かめる参加者の方もいて、会場全体が笑いに包まれていました。

10月「ぎのわん“見どころ”百選!」

講師：新垣 義夫（宜野湾市立博物館協議会会長）

野外見学!



宜野湾市の隠れた名所を巡るということで、普天満宮の洞穴やソニー坊の像、交通安全の塔など、身近にあるのになかなか気がつかない場所や物を見学し、それらに関するお話をしていただきました。意外な所に面白いものがある!と、みなさん驚きの連続でした。

11月「昔はじまりや ぎのわん」

講師：呉屋 義勝（宜野湾市教育委員会文化課長）



秋の特別展関連の講座でした。前半は特別展の説明があり、後半は企画展の内容と絡めながら、昔の生活の跡から、当時の人々の知恵・思い・社会のようすなどについて学びました。展示室の説明では、みなさん身を乗り出して聞いていました。

12月「ぎのわんの“湧き水”」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館学芸担当主査）

野外見学!



12月も特別展関連の講座でした。市内の歴史的な言い伝えが残る湧き水、現在における湧き水の活用に関わる湧き水などを中心に巡り、人々の生活と湧き水の結びつきについて学びました。見学中、参加者同士の交流がみられ、和気あいあいとした雰囲気でした。

1月「組踊と宜野湾の芸能」

講師：宜保 榮治郎（国立劇場おきなわ常務理事兼事務局長）



前半は組踊を創作した玉城朝薫や組踊創作の展開などについて、後半は、村遊びや八月踊など、宜野湾の芸能についてお話していただきました。先生のユーモアあふれるお話に、みなさん笑いながらの講座となりました。

2月「語やびら じのーんどうーむら」

講師：玉那覇 清仁（宜野湾区出身）



「ぎのわんの字展」に関連した講座でした。先生の思い出話とともに、戦前の字宜野湾のようすや暮らし、祭りなどについてお話していただきました。先生と同年代の方は、懐かしい表情で、戦後生まれの方は、昔の話を驚きながら、お話を聞いていました。

講師の皆さん、ありがとうございました。



わらば〜体験じゅく



平成22年度第11期わらば〜体験じゅくでは、6月から活動を始め、参加した子供たちとともに、宜野湾の歴史や文化を体験しながら学んでおります。今年度も、昔のおもちゃ作りをしたり、大山ターナム畑でターナムの植付と収穫を体験したり、海の生き物やさんごの勉強をしたりなど、様々な体験をしながら順調に回をこなしました。そんな「わらば〜体験じゅく11期生」の様子をご紹介します♪

<6月>講師：博物館職員



◆開校式&博物館探検◆

開校式にて自己紹介をしてもらいました。博物館探検では博物館のお仕事学んだり、普段は入れない収蔵庫を見学しました。

<7月>講師：※宜野湾市の先輩方



◆昔のおもちゃ作り◆

宜野湾市のおじいさん達から竹とんぼの作り方を教わりました。出来上がった竹とんぼは、みんなで飛ばしました。

※(田場典正・松本眞清・屋嘉比康勝先生)

<8月>講師：伊佐 實雄先生



◆ターナムの植付け◆

宜野湾市大山のターナム農家の先生から、ターナムの植付けを教わりました。はじめての畑作業にドキドキしました。

<9月>講師：石川青少年自然の家職員



◆宿泊学習◆

石川少年自然の家にて宿泊学習をしました。野外炊飯や登山など、大変でしたが、みんなで協力したら楽しくすごせました♪

<10月>講師：西平 守孝先生



◆サンゴの学習◆

サンゴについて学んだあとに、サンゴ染めTシャツを作りました。個性豊かでかわいいTシャツができました。

<11月>講師：濱口 寿夫先生



◆ヤドカリの学習◆

天然記念物のオカヤドカリってどういう生き物？海のヤドカリとオカヤドカリの違いってなあに？実際に見て触って学びました。

<12月>講師：博物館職員



◆豆腐作り◆

島豆腐を昔ながらの作り方で作ってみました！昔の道具は重たいし、使いこなすのも大変でしたが、おいしい豆腐が出来ました。

<1月>講師：宮城 徳康先生



◆ターナムの収穫◆

ターナムを、みんなで収穫しました。寒空の下での作業でしたが、みんなで楽しく収穫をしました♪

<2月>講師：比嘉 和行先生



◆そば作り&閉校式◆

最後は皆でそば作りをしました。おいしいそばを食べた後はとうとう閉校式！閉校式では修了証書と、皆勤賞の子には「わらば〜名人認定証」が授与されました！

講師の皆さん、ありがとうございました。



わらば～閉校式！



じゅく生のことば

宜野湾小学校 6年生 嘉手苺 一さん



ぼくがこのわらば一体験じゅくに参加して学んだことは、何事にも進んでチャレンジすることです。

このわらば一体験じゅくでは、学校ではあまりやらない自然とのふれあいや、伝統文化を学んだりすることでもっと知りたいということでどんどん質問していくようになりせっきょくてきになっていきました。

そしてこのわらば一体験じゅくに参加しているんなことを知りました。

たとえばとうふの作り方や、ケービンのこと、または自然の虫の種類など学校ではあまり習わないめずらしいことばかりを学びました。

ぼくがこのわらば一体験じゅくをやって一番楽しかった体験はとうふ作りです。なぜなら味もおいしかったし作るのも楽しかったからです。

ぼくはいろんな体験を通してこのわらば一体験じゅくに参加して本当に良かったなと思いました。

大山小学校 5年生 神谷 菜月さん



私はわらば一体験じゅくで、色々な事を学びました。私が、わらば一体験じゅくをやって、一番心にのこったのは宿泊学習と、とうふ作りです。

宿泊学習では、カレー作りをとってもがんばりました。がんばって作るととてもおいしかったです。ナイトウォークラリーでは、チームのみんなで協力して、夜の自然をたのしみながら色々なたのしいクイズにどんどん答えていきました。クイズは少し、むずかしかったです。登山は少しきつかったです。宿泊のグループは、友達じゃない人もいたけど、友達になれました。うれしかったです。

とうふ作りでは、びっくりしたことがたくさんありました。とうふを作るのは、こんなに大変なんだな、と思いました。そして、みんなでとうふを食べたとき、とてもおいしかったです！

わたしは、わらば一体験じゅくにかかわってくれた方々や、先生方にかんしゃしたいです。わらば一体験じゅくをやってまんぞくしました。これからの学習に役立てていきたいです。

わらば～サイコー！！



今回のわらば～体験じゅくでは26名のじゅく生が修了しました！ じゅく生のみなさん、修了おめでとう！

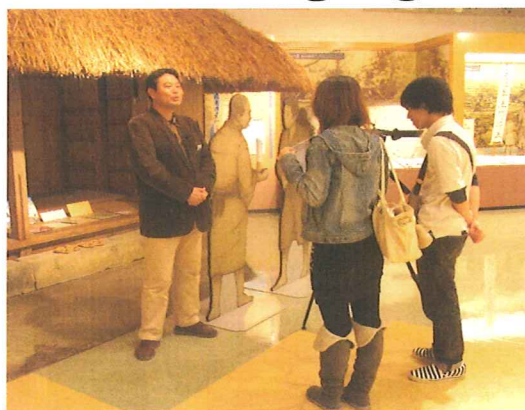
宜野湾GO!GO!プロジェクト



“宜野湾 Go!Go!プロジェクト”とは、宜野湾市のお勧めスポットや、あまり知られていない穴場スポット 55箇所をインターネット上にて、映像で紹介するプロジェクトです。博物館の取材では、軽便鉄道にスポットをあてて紹介しています。もちろん、博物館だけでなく、様々な宜野湾の見どころを紹介していますので、のぞいてみてはいかがでしょうか？映像は Youtube や、ていーだブログで見ることができます。

Youtube⇒<http://www.youtube.com/user/ginowan55>

ていーだブログ⇒<http://ginowangogo.ti-da.net/>



取材の様子

博物館「友の会」会員募集中

平成 23 年 3 月「宜野湾市立博物館友の会」が結成されます。
宜野湾市の自然、歴史や文化に興味がある方、博物館が好きな方、
この機会にぜひ、「友の会」に入会してみませんか？



友の会とは

「宜野湾市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して、宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。宜野湾市内だけでなく、市外からも広く会員を募集しております。

会員特典

- ＊博物館主催事業および本会主催事業への参加。
- ＊本会および博物館が開催する行事の通知。
- ＊「はくぶつかんネット」の送付。

会 費

- ＊普通会員（一般）-----年額 1,000 円
- ＊準会員（大学生、小・中・高生）-----年額 500 円
- ＊家族会員（普通会員＜二人目から＞）-----年額 500 円
- ＊賛助会員（本会の目的に賛同し支援する団体または個人）年額 10,000 円

博物館窓口にて

受付中!



宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL (098)870-9317 FAX (098)870-9316

開館時間 平日・土、日曜日 午前 9 時～5 時

休 館 日 火曜日・祝祭日・慰霊の日※文化の日は開館。

※その他、燻蒸による臨時休館日あり。

※休館日に祝日が重なる場合には翌日が休みではない日に振替休日。

